

## 入浴中の突然死

先日、午前中、インフルエンザで混雑している外来中に、警察から検死以来の電話が入りました。「自宅のお風呂で亡くなった方がいるので来ていただきたい」と。忙しい外来を中断して死体検案に行くのはタイミングが難しく、もう少し後で、と言いたい所でしたが、現場にいる家族や警察官の心情を思うと長く待たせるわけにもいかず、待合室の患者さんには「すぐ帰ってくるから」と言い残し自らの車で出かけました。時によってパトカーで迎えに来てくれることもありますが、パトカーが来るといかにも大げさになるので最近ではナビも発達しており自家用車で向かうことが多くなりました。

まだ60代の男性でしたが、前日入浴したまま心臓発作で亡くなったと診断しました。いろんな事情があって発見まで36時間以上経過しており、40度の湯温で熱せられ続けた皮膚は火傷でただれた状態でした。現代のお風呂はほとんどが定温循環型になっており、死体の発見が遅れると火傷の状態がひどいものになっていきます。以前ならお風呂で亡くなるのは苦しまなくて天国に行けて良かった、と言えないこともなかったのですが、ひどい有様の死体を見るととてもそんなことは言えない時代になりました。

これから寒くなって、ますます入浴中の事故が増えていきます。お風呂機器の会社には、入浴中の急変も想定して、入浴中にある一定の時間、動かなくなった人間がいた場合、自動的にセンサーが作動する仕組みを付けてもらいたいものです。そして警察でなく、生きているうちに救急車が来てくれるようなシステムを作るようにしなければと思った案件でした。

